

学校だより たぐち

佐久市立田口小学校 平成28年 12月 12号

繰り返される酒気帯び運転

児童生徒の皆さん、保護者の皆さんまた地域の皆様に心よりお詫び申し上げます。度重なる酒気帯び運転事案を起こしてしまい、申し訳ございません。

児童生徒の前に立つ立場の私たち教育公務員は、社会ルールやマナーまた、社会規範や法律を遵守することを大前提にして学校に勤務し、児童生徒への指導に従事しております。そうした立場の我々が、道路交通法に厳しく定められていたり、近年様々な飲酒・酒気帯びによる交通事故・事件が起きたりする中で、その危険性が深く強く認識されていなければならないにも関わらず、そうした認識が一人一人の教員の心に届いていないということに対して慚愧に堪えない思いでございます。どのように説明を申し上げても、誰もがご納得いただけないことだと学校に勤めるもの一人一人が、深く心に刻まなければなりません。本校はもとより、二度と繰り返さないという固い決意であるということをお伝えして、お詫びとさせていただきます。

本校での非違行為防止の研修について

ここでは、二つの事柄について、述べたいと思います。一つは、これまでの本校における非違行為防止の研修の状況についてと二つ目は、今回の事件が起きた後の対応について述べさせていただきたいと考えます。

まずこれまでに本校において行ってきた非違行為防止のための研修についてです。

① 「襟を正して」一人一人の先生に配布

4月には一人一人に先生のファイルを準備します。それは「襟を正して」と命名してあります。そこには、職員会の度に、資料を用意したり、また現実に起きた事例をもとにグループに分かれての討議に使用したりした、資料や記述した用紙などをファイルしてあります。また、県より出されている様々な綱紀に関する法律やルール等のプリントが綴じられています。常に振り返られるようにと考えました。

② あらゆる機会をとらえて非違行為を起こさないための講話、呼びかけ

毎週月曜日には、職員朝会の時間があります。その際にも短いですが、非違行為の中の一つを選びだし注意喚起をしてきました。例えば、12月では、個人情報の保護に対する注意を喚起しました。本校（他の学校でもほとんどそうですが）では、個人情報を持ち出す際には、記帳し校長教頭の許可を得る事になっています。その確認をしたり、事件や事故の情報（新聞等での公務員以外の記事でも）があれば注意を喚起するよう話題にしたりしてきました。

③ おおよそ月に一度の割合でもたれている職員会では、校長の話の時間は短時間ではありますが割り当ていただいているので、必ずその時間には、適時な題材を選択して先生方に考えていただいたり、グループ毎に話し合っていたりなど、一方的な形ではない研修を実践してきました。また、夏休みの終わりの日には、PTAの役員さんなど職員以外の方に研修会に参加いただき一緒に研修を受けていただいたり、お話をいただいたりなどのことも行ってきた。

④ 宴会などの際には、会場までどのように向かうかの調査、帰りはどのような方法で帰宅するかなどを記述してもらおう事も行っています。会の終了時には、会の当番の先生方がそれぞれの帰宅方法を確認するための声かけをしています。



これらのことは、どの学校でも行っておることと思います。しかし、問題は一人一人の心に届いているかどうかです。「自分の問題として考えているのか」が問題であると考えます。今回の事件が発生した後に、次のような事に取り組みました。

<一回目の研修>

- ① どのような事が起こったのかの事実確認を新聞記事などの内容から、先生方全体で確認をしました。また、その際には、いったいどのような点に気をつけ配慮をすれば良いかについて、各個人で記述して貰いました。(こうしたことは、たびたび行っているのですが)

- *本人に降りかかる今後の事柄
- *家族に降りかかる影響(特に子供たちへの様々な影響)
- *親戚やご近所への影響や反応
- *同僚や学校に勤務するもの全ての方へ及ぶ影響
- *学校の同僚や教育界への著しい信用失墜
- *全てを無に帰しかねない行為だという想像力の欠如

等々、個人的な時間に行った行為であっても、それが及ぼす影響の計り知れない大きさを先生方と共有しました。

その後すぐに上伊那でのわいせつ行為の報道があり愕然としました。

<2回目の研修>



2回目の研修は、教務主任の提案で、わいせつ行為が報道された後すぐに実施しました。

- ① 先生方からの率直な感想や今の心境や思いの発表。どうすれば良いかといったことへの大きな戸惑いと徹底的な管理を行うと行った主張や同僚との関わりの薄さや浅さに関する反省が出されました。

- ② 一回目に記述していただいたことをまとめたものの提示

まとめた用紙を読ませていただきながら、私校長より、

次の点をお願いしました。

- 田口小学校に勤務する仲間として、温かい関係性でつながろう。

例えば、*挨拶をパソコンから目を離して交わすこと、明るく元気に行うこと。出来ていたらもっと深まるように

*時間を守ること。会議の会合の時間はもちろんのこと。授業時間の始めと終わりも守ること。時間に遅れる場合などには、「遅れて済みません」などの言葉を掛け合うこと。そうすることで互いの温かな空気が満たされる状況を創ろうということ。

- 教育公務員としての自覚と誇りを、日々、心にして

例えば、*出張への出かける際には、管理職や同僚に「〇〇へ出かけます」と声を掛けて出かけることや、研修や会合への出かけて戻ってきたときには、復命をきちんと行うこと

等をお願いしました。そして最後に、

- ③ 年度当初に全員で心を整理しつつ書くようにしている「誓い」を、自分にとって大事な人に対して誓うという意味で再度、誓いを書いていただきたいという提案をし、再度の記述をお願いしました。

こうした地道な取り組みをどのような立場の先生方とも共有し、率直に意見を交しお互いのために批正し合い、支え合う温かい関係の構築こそが重要であると考えます。

連続して発生する教員の非違行為：11月に行われた来入児保護者の懇談会においても、また先日行われたPTA評議員会の折りに校長の話の中で触れさせていただきました。謝罪も申し上げました。ここまで連続した様々な事柄に及び起きてしまうと限定的な問題とはなりません。教育に対する教師に対する信頼は明らかに揺らぎ、崩壊していくのが当然の成り行きです。例えそれが、他校の事であっても自分事として受け止めるのが、社会人として当然です。私たち教師に保護者・地域の方から直接不信感が示されなくても、突きつけられている事実は変わりないと考えなければなりません。繰り返し述べられていることで恐縮ではありますが、二度と繰り返さないことを田口小学校の職員が、今後どの学校に赴任しても起こさないということを一人一人に心の中に形成したいと思います。また、それは、人としての生き方として確かなものでなければならぬと考えます。

文責 田口小学校長 滝澤 俊明

(写真は2枚とも修学旅行。この6年生の真剣な表情と笑顔のために)